令和５度秩父保健医療圏難病対策地域協議会　議事概要

１　日　時　令和６年１月２４日（水）午後３時３０分～４時４０分まで
２　場　所　秩父保健所　大会議室
３　出席者
【委　員】９名
大久保毅委員、宍戸美智代委員、熊木和歌子委員、宮下喬輔委員、設楽久美子委員、守屋和佳委員、坂本朱里委員、高橋幾子委員、柳澤大輔委員
【その他】長瀞町役場　桝谷氏、小鹿野町役場　猪野氏
【事務局】秩父保健所職員　３名
【傍聴人】なし
４　議事内容
（１）秩父保健医療圏における難病対策事業報告及び取り組み状況
〇資料２に基づき事務局から説明
質疑なし
（２）秩父保健所管内の災害対策への取り組み状況
〇資料３に基づき各市町から説明
〇意見交換
●災害時個別支援計画を保健所等と作成しているが、電源の確保が一番課題と感じる。避難所の電源確保の状況がわからないため、自分たちで手書きシートを作成して検討している。電源がある避難所等の情報を周知してもらえるとありがたい。
今は優先順位ごとに名簿を作成して安否確認ができるようにやっている。安否確認は、災害伝言ダイヤルで練習しているが、災害時に停電しても使えるのか不明。特別なものもあるようなので、そちらも練習できたらよいと考えている。
●東日本大震災の時、福島県に緊急応援消防隊として行った経験があるが、いろいろな情報を把握するところが一番困難だった。平時でも情報を集めるのは大変だと思うが、災害時はさらに大変になる。圧倒的に人手が足りない。どこにどれだけの支援が必要か把握しきれなかった苦い経験をした。今も能登地震で仲間が対応しているところだが、いかに情報共有できる手段を取れるかを普段から考えていく必要があると思っている。
●本人は２４時間電源が必要な状況。雷等で夜間停電することが予測できるときは、直接電源からバッテリーに切り替えている。昨年、原因不明で就寝時に突然停電し、真っ暗な中、大きなアラーム音が鳴ったことがあった。停電時は家族が電源の切り替えをするよう言われており、普段から練習を重ねていたが、家族はパニックになってしまった。今回は本人が目を覚まし、自分で繋ぎ換えたので大丈夫だった。内蔵バッテリーで４～５分持つが、その間に切り替えられないと命に係わる状況。理由不明の停電が起こるのは不安。
災害時個別支援計画を作成しており、必要時は町立病院でも充電させてもらえるようになっている。
●担当ケースは、自力では動けない方が多い。災害時に電源がなくなる前に、どのように家から出るのか、病院までどのように連れていけるのか問題と感じている。自分が避難

できる場所や電源の確保ができる場所等が明確になるとよい。台風等、事前に災害が予測できるときは、前もって連絡を取って早めに避難することもできる。災害時個別支援計画作成時に、避難方法をもう少し踏み込んで話し合いができたらよいと感じた。

●災害時の要支援者の支援方法は、複数必要と感じた。土砂災害で道路の寸断等いろいろな場面を想定し、二重三重の準備が必要。備蓄が通常３～４日必要といわれているが、能登半島地震では今でも水が完全に復旧されておらず、電源が確保できない状況が長引いている。ケースにより備蓄状況も違うので、個人個人に応じた支援が必要。平時から、近隣住民の協力を得たり、地域の防災訓練に参加し話し合う等、準備することが必要と思う。

●災害支援対策は、いろいろな方法を考えていかなければと思った。電源が必要な方が家から出られない状況も考えられる。アプリの利用なども含め、日常生活の中でも対処できるよう検討していかなければと思う。

●常日頃から有事に備えて準備していくことが一番大事と感じた。地域力というか、地域の方とコミュニケーションを取ったり、何かの時に助け合えるような関係性ができていると安心材料にもなると思う。

●町内の医療機器依存度の高い難病患者の情報は、防災や福祉の担当ごとでは持っているが、全体をまとめて把握できていない。全体の情報を集約して、問題発生時にすぐに対応できるような体制を作っていく必要性を強く感じた。

●指定避難所で電源確保ができていない状況。電源確保が必要な方の対応を早急に検討していきたい。福祉避難所として介護施設を指定しているが、周知が必要。患者さんの話を聞き、不安ということがよく分かった。能登半島地震のような災害が起きたときに、町としてどのようなことができるか検討していきたい。

●行政の方が色々考えて下さっていること、ありがたく思う。しかし、震災時に行政が動いて対策がとれるのには２週間、３週間もかかると思う。一番初めに手助けできるのは、家族や近所の人だろう。近所の人も被災していると難しいと思う。自分たちは、土砂災害や大雪時の避難ルートの検討や停電時の対応を考えている。薬は２週間余分に処方してもらっている。消毒剤等の衛生材料や薬、電源等を本人宅と実家に分散配置したり、親戚にも協力をお願いしている。行政に頼るだけでなく、各家庭でもできる範囲で準備しておくことが必要と思う。

●難病患者に対する対策は、個人の対策も大切だが、市町村を超えた協力も必要と思うので、協議会で意見を積み重ねていくことで協力が得られていけるとよい。

（３）その他

〇資料４に基づき事務局から説明